

# 高 伊那北高等学校同窓会報

発行  
伊那北高等学校同窓会  
TEL 0265(72)7312  
FAX 0265(76)5585  
<http://www16.ocn.ne.jp/~inakita/>  
印刷 (有)マスマタ印刷

## 《生徒数の推移》

伊那北高校は周年行事が盛んで毎年お招きいただきます。そういった会で生徒数の話題が多く出てきます。戦後のベビーブーム世代が一段落した後の昭和40年代は本校の一学年は240人でした。昭和50年代は270人規模でしたが、第二次ベビーブーム世代により昭和62年の卒業生は360人と急増しました。その後450人募集の時期がありピークは平成2年度で在校生数が13000人を超えていました。平成10年以降になると徐々に減少し現在は240人規模に戻っています。

## 《少子化の現状》

伊那北高校は規模としては上伊那では最大です。かつては郡内の専門高校(農・工・商)も規模が大きく、本校が特別大規模というわけではあ

りませんでした。昭和の終わり頃から募集定員が急増しましたが、専門高校の規模をいきなり大きくするのは難しく普通高校がクラスを増やしました。当時の上伊那全体の中学校卒業生数は3000人も

## 少子化で高校再編加速へ 伊那北を取り巻く現状

校長 澤井 淳(高26)



ありました。現在は1800人台です。減少は続いています。専門高校はいままでクラス減によりほとんどが1学科1クラスになっており、これ以上の減は学科そのものがなくなることを意味します。そのためか最近のクラス減は普通科が担っています。

## 《今後の動向》

さて、少子化はさらに進行し上伊那地区も十数年後には

1400人台となります。その先も増えることは期待できません。現在上伊那には県立8校と私立1校があります。このまま減少が続けば、本日もいずれ5クラス、4クラス規模と減少します。よく教育

は共通性と多様性(卓越性)の両面が重要であるといわれますが、一番の課題は多様性の確保です。生徒減は教員減ももたらします。教科指導でも専門科目以外を担当することはよくありますが、できれば理科では物化生地の4分野の教員がいることや地歴公民でも日世地倫政それぞれ分野の教員がいていただければありがたいわけ

す。その他にもクラブ顧問の確保も難しくなっています。かといって、本校だけ現状を維持し続けることは困難です。様々な地域の要望や多様性の確保にどう応えていくかは地域全体の大きな課題だと思います。

## 《今後のありかた》

揮するのが素晴らしいところ。その勢いが学習面でも失われてしまわないようにしなければなりません。物理的な生徒の減少は精神面だけでは補えない部分もあると思います。

本校では校訓や校是は明文化されていませんが、質実剛健、文武両道、躍如也は昔から校是同様に扱われていました。女子生徒の割合は増加してきましたが、その活躍は将棋部や英語部、生徒会活動など目覚ましく、男子同様強い心持で頑張っています。文武両道は勉強もクラブ活動も生徒会活動も頑張ることが自分の将来の成長につながるものとされていますが、クラブ活動を中心に生徒数の減少が響いてきています。すでに山岳部はなく、創立当時から柔道部もすでに部員がいまません。その他にも部員確保が難しい部活も出始めました。こうした面での多様性の喪失は学校の活力の低下に結びつくのではないかと不安です。高校生は目覚ましく成長し、クラブ活動などで思わぬ力を発

現在、県教育委員会では将来検討委員会で検討を進めています。それが具体案になるのは2、3年後です。地域に根差した学校があったり、産業界と結びつきの強い学校があったりとそれぞれの学校によって歴史や状況が異なります。地域の要望に応えつつ、共通性と多様性をいかに担保していくかが大きな課題です。このままでいけば否応なく高校が減少する時代がそう遠くない未来にやってくる。具体案が出される前であっても地域の合意が進めば早い対応も可能です。他地域のモデルとなるような地域合意を進めることが本校の将来像にもつながると考えています。

今後の本校の在り方や地域の高校の将来像は将来を担う子どもたちのためにも、地方創成のためにも今手を付けなければならぬ喫緊の課題です。